特集 はこまち対談

Part 11

子どもの遊びに親立ち入り禁止

赤石 哲明（あかいしてつあき）氏

〈PROFILE〉

1976 年　北海道函館市出身　北海道教育大学函館校小学校教員養成課程卒業　NPO 法人 NATURAS　代表理事　教育活動家　函館市青少年研修センター館長（2010 年 4 月より）函館を中心に子どもたちを対象にした自然体験型環境教育事業を提供する「なちゅらす」を運営。テーマは、「子どもたちに失敗をプレゼント」で、遊びを通しながら、様々な困難の乗り越えてもらい、その経験から、「たくましさ」「自立心」を育むプログラムを展開している。サケの観察会、カヌーキャンプ、くるくるバームクーヘンづくりなど体験学習会を実践している

今回は、子どもたちへユニークな体験学習を行っているNPO法人NATURAS（なちゅらす）の代表　赤石さんに、子どもたちへの思いや活動の原点についてお聞きしました。

丸藤：　ＮＡＴＵＲＡＳさんは、面白そうなことをたくさん行ってますね。

赤石：　子どもたちを対象にした体験学習をずっとやっています。屋外でバームクーヘンを焼いたり、恵山の噴煙の上に鍋をかけてカレーライスを作ったり、雪の上にテントをはって冬眠キャンプをしたりと季節に合わせ色々やってます。毎週末と、夏休みや冬休みで、年に５０種、７０回くらいかな。

丸藤：　タイトルも、中味もユニークなものばかりですよね。

赤石：　基本的に、自分のやりたいものばかりです（笑）。イベントは、自立させたいとか、たくましく育ってほしいという目的を達成するための手段と考えています。イベント自体が絶対ではなく、目的に向かって一番効果が高いものは何かを考えながらやっています。

丸藤：　体験学習の特徴は？

赤石：　親立ち入り禁止、です。子どもの頃、親が見てたいら思いっきり遊べなかったですよね。居心地がよくない（笑）。

丸藤：　親は心配しませんか？

赤石：　心配だと思います（笑）。そこを預けてもらう。参加した子には一通ずつ手紙を書きます。３～４ページの写真付きの活動記録も渡します。そういうことで信頼関係をつくってきました。子どもより、親に思いきってもらいたい。親が子どもを突き放すタイミングとして利用してもらいたいですね。親が突き放してこそ、初めて子どもはたくましくなると思います。

丸藤：　赤石さん自身が子どもの頃って、どんな感じでしたか？

赤石：　遊んでいたイメージが強いかもしれませんが、実は逆で、やりたいことがいっぱいあったのに何もできませんでした。なので、今、思いっきりやっています（笑）。

丸藤：　４月から、谷地頭にある函館市青少年研修センター（ふるる函館）の指定管理者になりますね。

赤石：　屋内をメインにした事業も行ってい

き、子どもたちに遊ぶことを体験させてあげたいなと思います。たくましさとか自立心をつかませたいという教育方針で、それを学ばせる場にしていきたいと思っています。施設管理は初めての体験なので、大変さもありますが楽しみでもあります。

丸藤：　ＮＡＴＵＲＡＳを立ち上げたのが、８年前の２５歳の時ですよね。

赤石：　３年間、小学校の臨時教員をしていて、学校のいわば主流の勉強はとっても大事だけど、それ以外に副流というか枝分かれしたものがたくさん必要じゃないかと思ったんです。学校は組織が大きいので細やかな動きをとるのは難しい。で、反抗期がまだ続いていたので、「自分のやりたいことをやる！」と学校を飛び出したのがきっかけです。最初は大変でした。給料は一気にゼロに。将来の保障も消える・・・

丸藤：　ずっと継続してやっていて、しかもそれで食べているのは凄いですね。

赤石：　子どもを預かる身としては、全責任を持ってやりたいと思っています。今までに、自主事業の中だけでも４～５千人の子どもたちに体験学習をしてきました。一番初期の頃の子どもは、もう大学生になってます。時々、手紙が来ます。子どもの頃わんぱくにやり過ぎちゃって、自分のやりたいことを抑えきれない人間になってしまったみたいです（笑）

丸藤：　凄い人数ですね。今の子どもたちの印象は？

赤石：　経験が少ないですね。でもその分、とても純粋です。便利になり過ぎて、苦労をしたくてもできない。蛇口をひねるとか醤油のパックを開けるとか、私が無意識の中で学習してきた手先の使い方などが、今の子どもたちはできなくなってます。

丸藤：　それで、社会の色んな恐ろしいことに直面すると厳しいですね・・・

赤石：　でも、純粋だから、その苦労を楽しむ子どももたくさんいますよ。

丸藤：　将来の夢は？

赤石：　子どもたちの教育の質を高める場を、どんどん増やしたいです。具体的には、函館の子どもに色んなものを見せてあげたい。良いものだけでなく、悪いものも。とにかく、比較できるものを比較させてあげたいです。そして、函館から道内、うまくいけば道外。さらに海外でも何かやってみ　たい。

丸藤：　今まで一番遠くに行ったのは？

赤石：　襟裳とか富良野、海を越えたのは奥尻ですね。僕自身、日本が恵まれていることを十分に理解していないと思うんですけど、今の子どもたちに日本がどれくらい恵まれているか見せてあげたい。良い点も悪い点も知らないともったいないですから。

丸藤：　最後に、親や子どもたちへメッセージを

赤石：　親や子どもたちには、思い切ってやってもらいたいです。それが成長につながります。思い切る、ということが重要だと思います。

函館市青少年研修センター（市内谷地頭町５番 14 号）
＜開館時間＞ 9：00～21：00
＜休館日＞ 毎週月曜日、国民の祝日
（月曜日が祝日の場合は翌日休館）
＜連絡先＞ 電話 0138-23-5961 FAX 0138-23-1315
＜使用料＞ １人１泊 小・中学生 200 円
高校・学生・勤労青少年 400 円
その他 1,000 円
体育館・研修室・和室（別途料金要）なども使用できます。

＜聞き手＞
函館市地域交流まちづくりセンター
センター長

丸藤 競